

収益的収支

項目	金額
収益的収入	10億1,648万円
営業収益	9億7,795万円
(内給水収益)	9億3,522万円
営業外収益	3,853万円
特別利益	0万円
収益的支出	8億2,675万円
営業費用	7億5,576万円
営業外費用	7,099万円
特別損失	0万円
純利益	1億8,973万円

資本的収支

項目	金額
資本的収入	3億1,582万円
企業債	2億7,300万円
負担金	0万円
補助金	4,282万円
資本的支出	7億5,370万円
建設改良費	4億6,473万円
企業債償還金	2億8,897万円
不足額	4億3,788万円

水道事業会計



給水人口	46,555人
給水戸数	21,900戸
年間給水量	3,793,626m ³

水道事業は、原則、水道料金収入のみで経費などを全て賄いながら、市民の皆さんの生活に必要な可欠な水を現在はもちろん、将来にわたって安全に、そして安定的に供給するため、市が一つの企業として運営しています。

収益的収支における収入合計は、予算の10億1千958万円に対し、決算は10億1千648万円、310万円の減となりました。

支出合計は、予算の8億7千698万円に対し、決算は8億2千675万円、5千23万円の減となり、この結果、収支決算は、1億8千973万円の黒字となりました。

黒字額については、国などからの借金の返済に備え、減債積立金に9千487万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため建設改良積立金に9千486万円を積み立てる予定です。

資本的収支における収入合計は、予算の3億7千500万円に対し、決算は3億1千582万円、5千918万円の減となりました。

また、支出合計は、予算の8億5千166万円に対し、決算は7億5千370万円、9千796万円の減となりました。

この結果、収支決算は、4億3千788万円の不足となりましたが、不足額については減価償却費などの内部留保資金（損益勘定留保資金）などで補てんしました。

企業債の残高

(令和2年3月31日現在)

44億597万円



給水人口一人当たり
94,640円

簡易水道事業会計



給水人口	149人
給水戸数	114戸
年間給水量	89,596m ³

主に農業活動などを支えるライフラインとして重要な役割を担っている簡易水道事業。北海道や市の営農用水事業を経て、市は、平成8年度から簡易水道事業としての経営認可を受け、事業運営を行っており、令和元年度からは企業会計方式を採用し、市が経営する企業として運営しています。

令和2年2月に料金の改定を行い、今後も令和4年、6年に段階的に改定するなど、赤字の解消に努めていますが、収益的収支において2,227万円、資本的収支において173万円の不足となりました。

不足額については、減価償却費などの内部留保資金（損益勘定留保資金）などで補てんしました。

企業債の残高

(令和2年3月31日現在)

2億217万円

収益的収支

項目	金額
収益的収入	4,800万円
営業収益	1,240万円
営業外収益	3,396万円
特別利益	164万円
収益的支出	7,027万円
営業費用	6,793万円
営業外費用	234万円
特別損失	0万円
純損失	2,227万円

資本的収支

項目	金額
資本的収入	2,191万円
企業債	1,500万円
補助金	691万円
資本的支出	2,364万円
建設改良費	1,644万円
企業債償還金	720万円
不足額	173万円

●収益的収支…設備や施設などの管理に必要な支出と使用料などの収入を表したものに
かかる支出と、企業債収入などの収支を表したもの

●資本的収支…施設の新設や改良のほか、借金返済など